

会議録

1. 会議名	平成30年度 第1回出雲市子ども・子育て会議
2. 開催日時	平成30年6月4日（月）14：30～16：57
3. 開催場所	出雲市役所本庁 3階 大会議室
4. 出席者	<p><委員></p> <p>肥後功一委員（会長）、高橋恵美子委員（副会長）、勝部順子委員、 玉木 満委員、鐘築徹雄委員、野津 徹委員、羽根田紀幸委員、 糸原直彦委員、常松道人委員、飯塚由美委員、松本泰治委員、 廣戸悦子委員、高橋悦子委員、西 郁郎委員、上領芳江委員、 高橋義孝委員（順不同）</p> <p>（欠席：橋崎智弥委員、坂根守委員、飯塚勉委員、原 成充委員）</p> <p><事務局></p> <p>長岡出雲市長、子ども未来部長、子ども未来部次長（兼 保育幼稚園課長）、 子ども政策課長、福祉推進課補佐、健康増進課長、市民活動支援課長、 教育政策課長、学校教育課長、児童生徒支援課長 ほか</p>
5. 次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱ならびに委員の紹介 3 市長あいさつ 4 会長並びに副会長の選任について 5 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度の保育所・幼稚園の入所・入園状況等について (2) 保育所職員の処遇実態調査の結果について (3) 平成30年度の放課後児童クラブの入会状況等について (4) 年中児発達相談事業と情報共有の取組について (5) 子どもの医療費にかかる請願・陳情について (6) 平成30年度子育て支援事業にかかる新たな取組について 6 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成31年度保育所定員拡大に向けた施設整備及び調査について (2) 出雲市子ども・子育て支援事業計画（第Ⅱ期）にかかるニーズ調査の実施について 7 事務連絡 8 閉会

6. 議事要旨	以下のとおり
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱ならびに委員の紹介</p> <p>委員のみなさまには、本年4月1日から2年間の任期で本会議の委員を委嘱させていただいております。本来、会議に先立って、委員のみなさまに委嘱書をお渡しすべきところですが、限られた時間での会議の進行上、席に置かせていただいておりますこと、ご了承いただきますようお願いいたします。</p>
各委員	<p>【出席委員、自己紹介】</p>
事務局	<p>委員20名中16名のご出席で、出雲市子ども・子育て会議条例第6条第2項により、定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>また、本会議は、出雲市子ども・子育て会議規則第3条第1項の規定により、公開を進めてまいり、議事録については、後日、ホームページ等で公表することとしておりますので、ご了承ください。</p>
市長	<p>3 市長あいさつ</p> <p>平成30年度第1回「出雲市子ども・子育て会議」の開会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。みなさま方には、平素からそれぞれの立場で本市の子育て支援に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。</p> <p>また、皆様方には、「子ども・子育て会議」の委員をお願いいたしましたところ、快くお引き受けいただきましたことに、深く感謝を申しあげる次第でございます。</p> <p>さて、「子ども・子育て支援法」に基づき、平成27年度から新たな子ども・子育て支援制度がスタートいたしました。当時、この新制度に対応する「いきいきこどもプラン～出雲市子ども・子育て支援事業計画～」を策定しましたが、5か年計画の中間年にあたることから、昨年度は、取り組んでいる事業の一部の計画数値等の見直しを行いました。</p> <p>近年、出雲市では順調に子どもの数が増加傾向にありましたが、残念ながら平成29年度は生まれてくる子どもが1,500人を切りました。昨今、報道されています合計特殊出生率は、我が国は全体で1.44、島根県は1.75で全国都道府県の中で第3位に転落したとの報道がありましたが、出雲市は1.84であります。この数字はキープしておりますが、一時、1,600人に届こうかという出生者数が、28年度に比べますと97人の減で、約100人減ったということでもあります。年によってバラつきがあることはよくありますが、今後</p>

会長	<p>の傾向がどうなるかという心配もしております。</p> <p>少子化時代の到来と言われて久しいですが、一方で保護者の就労形態の多様化や、共働き世帯の増加、核家族化の進展といった子どもを取り巻く社会環境が変化する中で、年々保育ニーズは高まりを見せています。</p> <p>子育ては、保護者のみならず、地域や事業所も一緒に考え、取り組んでいくことが求められておりますし、今日お集まりのみなさんのように、出雲市の地域全体で子どもたちを育てていくという、「出雲市の総合力」が試されるともいえると考えています。様々な分野から支援を得て、安心して子どもたちを産み、育てられる出雲市であり続けたいと思っています。</p> <p>今回、委嘱いたしました委員の皆様には、平成 32 年度から始まる次期「子ども・子育て支援事業計画」の策定にも関わっていただく予定です。各分野の代表として参画いただいておりますが、未来を担う本市の子どもたちが健やかに成長することができる環境づくりに向けて忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。</p> <p>最後になりますが、本日の会議が有意義なものになりますことをお願いし、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしく願います。</p> <p>4 会長並びに副会長の選任</p> <p>委員の中から「会長に肥後功一委員、副会長に高橋恵美子委員」の提案があり、出席委員全員により承認される。</p> <p>会長あいさつ</p> <p>前日も大変難しい局面が出てきたので、大変、緊張感があります。この会議も 27 年度に新しい国の制度の下ではじまりまして、その前の 26 年度が計画策定で一番大変でした。私が大変ではなく事務局が大変でして、そんなにまだ制度がハッキリしない中でスタートして、子どもの保育ニーズによって、その支援の仕方を分けていく仕組みをつくっていきます。そして、いわゆる 13 事業という形で様々な政策を国としてプランをつくられて、出雲市に合うように「いきいきこどもプラン」をつくられました。そして昨年度、中間見直しを行いました。もう来年度は、次期計画の策定もあるようで、なかなか大変だなと思っています。</p> <p>量の見込みについて新しいプランの中で、出雲市の子ども数が増えるということは大事なことですし、市としての総合力をつかって子ども子育てを支援していくということになると思います。今までも待機児童ゼロとかの課題があつて、それは大事なことです。本質的には子ども自身を支援しながら、質の高い教育とか、その子どもに関わる家庭環境や地域環境の質をいか</p>
----	--

	<p>によくしていったって、次世代の出雲市・次世代を担っていく市民をどうやって育てていくのか、一番大事な目標となります。そこに向かって幅広い感覚をもって、みなさんのご意見をいただきながら作っていきたいと思います。限られた時間の中で上手く運営できればと思っていますが、私、会議の運営の中で順番に当てたりすることは、とても苦手な人間です。「どうぞ手を上げて発言ください」と変わらず進めていきたいと思っています。次期学習指導要領の重要な項目の中に子どもの主体性を育てることがあります。私も子どもにはそのように言っています。委員のみなさまも手を上げて頂き、私の進行に困るくらい活発な会議になりますよう、よろしくお願いします。</p>
副会長	<p>副会長あいさつ</p> <p>今期は委員になりまして3年目になります。私も出雲市に住んでいまして、子どもも大きくなりました。出雲で子育てをしているみなさんが、育てやすく安心して子育てができる環境を、一緒に考えていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>(市長、退席)</p> <p>資料確認、出雲市子ども・子育て会議について説明</p> <p>出雲市子ども・子育て会議条例第6条第1項に基づき、肥後会長を議長に選出</p>
事務局	<p>5 報告</p> <p>【説明】</p> <p>(1)平成30年度の保育所・幼稚園の入所・入園状況等について</p> <p>(2)保育所職員の処遇実態調査の結果について</p> <p>(3)平成30年度の放課後児童クラブの入会状況等について</p> <p>【質疑】</p> <p>(1)平成30年度の保育所・幼稚園の入所・入園状況等について</p>
委員	<p>「平成30年度は待機児童をゼロにする」という強い思いで取組まれた結果、本年4月1日には3名の待機児童となりました。昨年度と比較して大幅に減少したのは、みなさまのご努力の結果だと思えます。しかしながら、量の見込みに対して達していない、というのが正直なところです。今回の入所率が111%で、年度当初から120%の弾力化を行っておられますが、施設によって最大でどれくらいの幅があるか教えて欲しいです。</p>

事務局	<p>年度当初からの定員の弾力化 120%ということについて、年間平均入所率 120%を超える状態が 5 年間続くと公定価格が減算されるという制度があります。一時的に 120%を越えることは認められており、一番高い施設で 126.7%、低いところは、周辺部での利用希望が少ないということもあり、一番低いところは須佐保育所の 70%と、幅があります。</p>
委員	<p>今、保育所・認定こども園が 55 施設ありますが、広い出雲市では地域によって偏りや大きな差がでてしまうのは明らかだと思います。そういった意味を含めて、「幼稚園等の入園」にシフトするように市としても進めていると思いますが、なかなか上手くいっていないと先程、説明もありました。今後、量の見込みが超過したことや、これから始まる新しい制度を考えると、より幼稚園や認定こども園を活用しなければならないと思いますが、市の考えを伺います。</p>
事務局	<p>幼稚園につきましては、一時預かり事業をほぼ全園で、1 園は入園児童が 1 名であり一時預かり事業は実施していませんが、場所によってはニーズの調査を行い、時間変更ということも今後は検討していかなければならないと思っています。それと、今現在、1~2 歳児が多いのですが、幼稚園は 3 歳児からなので、来年度はその波（年齢）が少しずつ上がってくるとわれ、幼稚園の魅力づくりやPRなども含めて考えていきます。</p>
会長	<p>最初に計画を作る時にも、そこは問題になりましたが、そもそも幼稚園に対するニーズと保育所に対するニーズが同じ性質なものかということです。年齢が上がってしまえば、別に幼稚園でも保育所でも同じでしょうという話なのか、それとも現在の保育内容を継続して行うということなら、そう簡単に幼稚園と保育所は同質にはなりません。幼稚園に最初から通わせたいと思っている保護者には一時預かりは意味のあることですが、それがあからといって保育所を検討している保護者が幼稚園に入れるかということ、なかなかならないし、全国的にもどう考えていくかということになります。それに出雲市の特性という広域的な幼稚園のニーズがあります。これは、全国的に必ずしも主流ではなく、松江市や雲南市にもありません。そこは広域的に多くの施設があるということも、良さとして、次期計画では考えていかなければなりません。</p>
委員	<p>幼稚園の話ですが、一時預かりをしている幼稚園は多くなりました。でも時間が 14:30 から 16:30 までです。私の地元もそうですが、親の都合で、</p>

	<p>他の保育所に預けています。同じ校区の保育園に預けていますので、幼稚園は行かせたいけど、18:00 くらいまで預かってもらえれば幼稚園に替わるけど、16:00 くらいまでなら、なかなか難しいとの話をよく聞きます。昨年度、幼稚園の運営委員会から申請されたようですが、いろいろなことを考えて今年度は出来ないとの返事でした。多くはないかもしれませんが、そういった保護者の意見もいれてもらえないかと思います。私は高松小学校区ですが、入学する子が 100 人くらいいて、30 くらいの保育園・幼稚園から集まってきます。ほとんどは地元ですが、遠くの保育園から一人ぼっちで来る子とか、少人数の施設から来る子がいます。小学校に入った時に、その子にもよりますが、上手く集団に馴染めなくて不登校ぎみになるとか、そういう話もよくありますので、もう少し幼稚園が 18:00 くらいまで、せめて 17:30 くらいまでやっていただくといいなと思います。</p>
委員	<p>預かり時間の件もありますが、幼稚園の一時預かりのPR（周知）が足りないと思います。幼稚園でも預かりがあるの？と聞かれたり、周知が全体に行き渡っていないのではないかと思います。個々の幼稚園では公立がゆえに独自PRが難しいと聞いています。公立と法人とではPRのやり方等がいろいろな面（公立としての制限）で違うのかと感じていますが、出雲市からの指導とかありますか？</p>
事務局	<p>保育幼稚園課では、保育園も幼稚園も所管していますが、保幼合同研修とか、ゆめタウンで保育所・幼稚園の両方をPRしたり、市のホームページでも幼稚園の預かりや保育園の空き情報等、総合的にPRしていますが、そのような声があれば、今後、もう少し全体を考えたPRも考えていきます。</p>
	<p>(2) 保育所職員の処遇実態調査の結果について</p>
委員	<p>気になるところは「離職の状況」ですが、「離職の理由は何か？」と思います。勤続年数が 5 年未満で辞められる方が多く気になります。働き易い職場であったり環境（処遇）によっては、仕事が続けられると思います。</p>
事務局	<p>今回の調査項目には入れていないので、出雲市内としての数値は把握していません。全国的な調査の中では、結婚・出産であったり、人間関係が原因として指摘されています。先程、会長から離職しても他の保育所で勤めているとの話もありましたが、ここには載っていませんが、採用者の内訳として県在出身者の項目があり、382 人中 163 人と一番大きな数字になっています。この中には、おそらく園を替わって、また保育士として勤められる方も多い</p>

委員	<p>とっています。離職して保育士として働いていないとは思っていません。全国的な調査において保育士として就業した方が退職した理由としては、過去の国の資料を見ますと、妊娠・出産 25.7%、給与が安い 25.5%、職場の人間関係が 20.6%、結婚が 20.4%、この他、労働時間が長いとか健康上の理由が、全国的なところでは高い理由としてあげられています。</p> <p>説明があった離職理由で、処遇問題も大きいと思います。その改善策もだされましたが、使い勝手とかいろいろ問題もありました。やはり現場の管理者である園長、主任が、どれだけ職員のやる気の向上を図るかということが、とても大事だと思いますし、認識しないといけません。また、保育士を目指す学生さんには、保育士として勤めて、そのやりがいを見つけるまで、やりがいのある仕事だと私は思っていますので、それに気づくまでは頑張ってもらいたいと思っています。定着という面では、現場の管理者の責任もあります。職場の人間関係が問題ということであれば、しっかり管理しなければならないと思います。</p>
委員	<p>辞めた理由もそうですが、実際、基本給の平均値からみても出雲市の平均給与は若干高く、これは時間外があるからだと思います。先程、働き方の話がありましたが、この資料が平成 26 年から 28 年までのものなので、もう一度調査をされるのであれば、離職の理由を聞くのもいいが、今働いている現状や働き甲斐はどうなのか、といった実態調査をするのであれば、時間外等を含めてやられてみればと思います。</p>
事務局	<p>補足になりますが、平成 29 年度から処遇改善されたものもありますが、この調査の時点では反映されていない部分が多くあると思います。今年度も調査を継続して行っていきたいと考えております。</p>
委員	<p>(3)平成 30 年度の放課後児童クラブの入会状況等について</p> <p>放課後児童クラブの利用は、近年、急激な高まりをみせています。需要と供給のバランスが、大きなポイントと考えています。共働き世帯が増えたこともあり入所の要望が高まるのは自然なことです。そもそも放課後児童クラブは、保護者や公民館が立ち上げたような所から、現在は自治協会が中心となって運営委員会を設置したりしていて、幅広く受入側も変化しています。そうした中で、ここには受入の拡充、体制の強化といった記載がされていますが、なかなか実態が伴わないのが実情だと思います。そこには問題・課題もあって、新入学児の 40%から、多いところで 68%ぐらいの入所の申込み</p>

	<p>がありますが、法改正もあって小学生が全対象となり 4 から 6 年生も入れませんが、1 から 3 年生でも入所できません。このようなニーズに対して、片方で、受入側の体制ですが、入れ物（ハード）自体も抜本的な改善が必要なところがほとんどだと思います。こうした中で、順次、計画に基づいて更新なり受入拡充していくこととなります。昨年は社会福祉法人による新設があり、今年度も新設の予定があるようですが、社会福祉法人が運営する児童クラブと、過去からあるクラブの運営のあり方、今後、社福のクラブが増えていくと、地域の同じ児童受入の中で、どのように均衡を持たせていくのかも課題だと思います。</p> <p>それと『(2)運営委員会の受入体制の強化』の課題ですが、支援員の処遇改善もあります。児童クラブは、平日は 3 時半から 6 時までの数時間ですが、夏休みになれば 8 時から 17 時までの 10 時間近くになるという勤務体制の問題もあります。例えば今でも時間給ですし、制度化されていない賃金体系などです。労働条件についても有給休暇があつたり、なかつたりと不規則な部分があります。思い切った処遇改善を行っていかないと、今の時代、職員の確保が大きな課題となっています。受入の設備もさることながら、人的な確保も処遇改善など真剣に取り組んでいかないと、子どもの入所率はまだまだ高まると思いますが、いろいろな意味で受皿が難しくなっているので、どのような方法がいいのか、委員のみなさんから建設的な意見をいただきたい。</p>
委員	<p>職員の確保が大変です。定員 30 名に対して 17 名でスタートしていますが、職員は 9 名で対応していて、今はなんとかやっていけると思っています。資料には「委託基準の見直し、処遇改善、職員の定着化」と運営体制の安定化も書かれています。もちろん児童クラブは営利目的でやってはいません。19 名以下だと小規模の児童クラブになり、小規模の加算がありますが、17 名の時と 20 名になった時では 110 万円くらいの差が運営費補助にでます。大半の 80%以上が人件費に充てる中で 20 名から 25 名、25 名から 30 名は 10 万 5 千円しか差がありません。平成 30 年度は、児童クラブ事業は別会計でやっていますので、相当な赤字になると思っています。人件費を安く試算していますので、よけいに赤字になるかもしれません。運営費の補助基準について差が出すぎていると感じていますので、市の方で検討していただきたい。</p>
会長	<p>「中間年の見直し」によると、児童クラブは 13 ページにあります。この見込みと比べて、そのまま 31 年度は上手くいくのか。30 年度は 4~6 年生は足りない予定ですが、31 年度は出ない見込となっていますので、今後、考えていかなければなりません。</p>

事務局	<p>【説明】</p> <p>(4) 年中児発達相談事業と情報共有の取組について</p> <p>(5) 子どもの医療費にかかる請願・陳情について</p> <p>(6) 平成 30 年度子育て支援事業にかかる新たな取組について</p> <p>【質疑】</p> <p>(4) 年中児発達相談事業と情報共有の取組について</p>
委員	<p>実際、実施されてみて、医療側よりも保育園側で役立っているのではないかと思います。また、先々を見据えて小学校と上手く連絡をとっていくことに意味があり、いいことだと思いますので、是非、進めて頂きたいです。</p>
副会長	<p>実施報告の 6 ページのところに保護者の専門職相談の「希望あり」が 126 人おられて、結局、専門相談を利用されたのは 33 人となっています。利用されていない 93 名は、どのような支援を受けられたのか教えていただきたい。保護者が「心配・相談あり」と答え、園と市が「この子、心配だね」としたのものや、全体の専門相談、就学予定先については、それぞれ何人だったか書かれています。保護者が「心配あり」だが、市は「心配なし」とした 386 人はどのような支援を受けられたのでしょうか。</p>
事務局	<p>年中児発達相談事業では、保護者が応援シートを記入した後に、幼稚園・保育所が全ての保護者に面談を行い、その上で希望する保護者への専門職相談を実施しています。専門職相談の希望者に対して利用者が少ない要因として、園における保護者面談によって不安が軽減・解消される保護者が多く、結果的に専門職相談が不要となる保護者がいらっしゃるもの考えます。また、園における保護者面談は、保護者の心配の有無に関わらず悉皆で行うことから、心配感の高い保護者への相談・支援の場となっています。一方で、子どもの成長は著しく、時間の経過と共に大きく変化するため、心理相談員等による園への巡回相談を継続して実施し、子どもの様子を把握しながら、園への助言や保護者面談を行っています。本市では、年中児発達相談事業と巡回相談を組み合わせることによって、年中児の時期以降も効果的な支援ができるよう取り組みたいと考えています。</p> <p>(5) 子どもの医療費にかかる請願・陳情について</p>
委員	<p>医療費の負担軽減については、無料化の年齢を上げていく方法が一つあり</p>

	<p>ます。また、書いてはありませんが、もう一つは、予防接種の定額化や補助といったものがあります。オタフク風邪ワクチンは、2回打つのがいいのですが、1回打つだけでも軽症化します。それには接種率を上げていくしかありません。接種率を上げていくには、全額補助ではなくても、一部補助でも接種率を上げることに繋がるのではないかと考えています。全国の自治体を見ると補助を出している所もあります。そのような方法も考えていただきたい。</p> <p>(6)平成30年度子育て支援事業にかかる新たな取組について</p> <p>(質問・意見なし)</p> <p>6 議事</p> <p>【説明】</p> <p>(1)平成31年度保育所定員拡大に向けた施設整備及び調査について</p> <p>【質疑】</p> <p>(1)平成31年度保育所定員拡大に向けた施設整備及び調査について</p> <p>1(1)の「あすなろ」の件ですが、200名が220名になる計画の内訳はどうなっていますか。</p> <p>0～3歳児が各3名で12人、4～5歳児が各4名で8人、合計20人です。</p> <p>2の調査についてですが、認定こども園化をするということについては、出雲市としては、どう考えていますか。私立保育所に（認定こども園を）してほしいという意向ですか？出雲市も県も「（認定こども園化は）法人に任せる」と言われませんので、私たちとしては「やってほしいのか、やってほしくないのか」が分かりません。行政によっては、一律、認定こども園化を進めているところもあります。「やってほしい」ということであれば検討するでしょうし、このままでは「やっぱり、やってほしくなかった」と言われても困ります。集会等で「やってもらいたい」と言ってもらわなくても結構ですが、出雲市としては「国がこの制度の中で進んでいる訳だから、その方向に進むべきだ」というところまでを言ってもらわないと、これはいくら議論されても、保育所側は検討が出来ません。</p> <p>国も制度設計を始めた時は、全体を認定こども園に向かわせる勢いで話し</p>
事務局	
会長	
事務局	
委員	
会長	

事務局	<p>れていましたが、開けてみると、多くは私立の幼稚園が認定こども園化したのが実態です。また、市の中でも地域によって大きく違います。行政から私立の法人に向かってなかなか言いにくい部分はあるかとは思いますが、市の方で大きな基本方針がありますか。</p> <p>市の「子ども・子育て支援事業計画」を、当初、平成 26 年度に策定した中で、「市立幼稚園の今後のあり方の検討・実施」という項目があります。その中で「認定こども園に向けた取り組み」という項目があります。園児が減少している市立幼稚園の内、今後もさらなる減少が見込まれる園については、幼児教育の質を維持しながら、地域の子育て支援ニーズを満たすという観点から認定こども園化を検討し、子ども・子育て環境の充実を図ります、となっています。今回、この調査をさせていただきますが、市としましては、どこでもかしこでも認定こども園化を考えている訳ではありません。市立幼稚園の園児が激しく減少していく中では、幼児教育の質を維持していくということで、認定こども園化という明確な方針を持っています。社会福祉法人への譲渡ということも今は考えているところですが、条件的に出来るところと、出来ないところがありますので、子育て環境があるか、ないかを踏まえながら、市としてもその移行に期待しています。</p>
会長	<p>今、お話があったのは公立幼稚園での方針だったと思いますが、ここ数年で、公立幼稚園でこども園化をする動きがあるところがありますか。</p>
事務局	<p>多伎こども園が平成 27 年の 4 月から移行していますが、他に具体的には今のところ移行を見込んでいる園はありません。</p>
会長	<p>定員の問題はかなり大きい印象はありますが、いわゆる周辺部ではなく、中心部で取組む話なのかもしれません。こども園化の方針をもって取組むのであれば、早めに取り組まなければなりません。もし、第 1 期の計画で書き込まれていれば、具体的などころがあるのではないかと思いますので、聞いてみました。</p>
事務局	<p>出雲市は、公立幼稚園が 27 園、各地域に配置してありますが、私立の保育所（法人）と公立幼稚園とのお見合いのようなもので、そのような要望がある中で、幼児教育を地域として残したいという思いがあれば、そういう組合せも今後は考えていきます。今すぐという具体的なものはありません。</p>
会長	<p>ご質問もありましたが、基本的には提案された方向で進めていただくこと</p>

各委員	<p>です承したいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(了承)</p>
事務局	<p>【説明】</p> <p>(2) 出雲市子ども・子育て支援事業計画（第Ⅱ期）にかかるニーズ調査の実施について</p> <p>【質疑】</p> <p>(2) 出雲市子ども・子育て支援事業計画（第Ⅱ期）にかかるニーズ調査の実施について</p>
会長	<p>前回の調査の具体的な項目を見ながらの説明でしたが、具体的な案は次回に示されるということです。今日は、これをご覧頂いて、調査を行うことを諮るものです。ご意見等があれば、次回までに事務局の方へ出して頂ければよいのではないかと思います。特に実施することについて意見がなければ、承認したいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
各委員	<p>(了承)</p>
会長	<p>それでは、本日予定しておりました案件について全て終わりましたので、これにて会議を終了させていただきます。委員のみなさま、ご協力ありがとうございました。</p>
事務局	<p>肥後会長、ありがとうございました。委員のみなさまにも、長時間にわたり、ありがとうございました。それでは、連絡事項がありますので、担当から説明いたします。</p>
事務局	<p>7 事務連絡</p> <p>2点について、ご説明をさせていただきます。</p> <p>①資料として「平成30年度出雲市子ども・子育て会議の予定について」をお配りしています。会場等の都合もありまして、次回は8月10日に開催することとしております。委員のみなさまにはご都合を合わせて頂き、ご出席いただきますよう、よろしく願いいたします。</p> <p>なお、7月上旬に正式な案内文書をお送りし、また、会議資料も会議の前にお届けする予定であります。</p> <p>②新たな委員になられた方に報酬の支払関係の書類の提出のお願いをさせ</p>

	<p>ていただいております。本日関係書類をご持参いただいておりますら、会議終了後に事務局までご提出をお願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
事務局	<p>ただいまの説明に関して、みなさん、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、閉会にあたり、子ども未来部 部長 石飛幸治 がごあいさつ申しあげます。</p>
子ども未来部長	<p>本日は、30年度の第1回会議ということで、新しい委員のみなさま、また継続の委員のみなさま、これから2年間お世話になりますが、よろしくお願ひいたします。</p> <p>今日は報告が沢山ございました。中でも昨年度、懸案事項として位置付けておりました保育所の待機児童については、ゼロにはなりませんでしたが、「3」という数字、これは現場の、各保育所のご協力による成果だと思っております、この場を借りてお礼を申し上げます。また、これで待機児童問題がなくなった訳ではなく、毎年毎年が、この待機児童問題は当分、続いていくと思ひます。ましてや幼児教育の無償化とか子育て環境が混沌として先が見えない中においては、これからも緊張感を持って業務にあたっていかなければならないと思ひています。</p> <p>みなさま方には、32年度から始まる第2期の計画の策定に深く関わって頂くわけですが、今年度は先ほどの資料にありましたように、調査とかアンケートとか、事務局サイドで仕込みをする年であると思っております。そうした状況を随時、みなさまにご報告いたしまして、来年度から本格的に第2期の計画策定に向けて動きだしたいと思っております。また、本年度・31年度については、現計画の見込みを注視しながら、ご意見等を頂きたいと思っております。</p> <p>今後も引き続き子育て支援については、関係者と事務局が一丸となって取り組んでまいりますので、よろしくお願ひいたします。本日は誠にありがとうございました。</p> <p>8 閉会</p>